

三豊市民は高い関心を持っています！ そして、地球温暖化問題は若い人ほど切実です

このシリーズの1月号で『ダイオキシンのときは、あれだけ劇的に取り上げたマスコミも、なぜか地球温暖化に関しては反応が曖昧緩慢です。そしてそのせいか私たちも立ち上がろうとしていません。』と記しましたが、今年の年末年始にかけての新聞およびテレビでの特集は目を見張るものがありました。

私たちの関心が高まるということが、まず問題解決に向けては必要不可欠の第一歩です。

そして、三豊市民はすでに子どもから大人まで高い問題意識を持っています。

誇るべき

子どもたちの温暖化防止活動

ごみを拾ったり、空き缶を集めたりと、三豊市内のいろいろな学校で、子どもたちが環境を守る活動をしてきています。「捨てているのは誰だ!」と、大声で言いたくなりますが、子どもたちには市民みんなで感謝したいと思います。

12月2日、香川県民ホールで開催された「ストゥップ!地球温暖化」をテーマにした「地球にええことパーティ」に、三豊市から下高瀬小学校が参加し、地球温暖化防止のための取り組みで、香川県代表に選ばれました。そして、各都道府県から代表が集い、2月9日に東京都で開かれた全国大会「ストゥップ温暖化」一村一品『大作戦(環境省主催)』では、優秀賞を受賞しました。

「人や環境にやさしさを広げよう」と、地域や社会、先人の知恵に学びながら、自分たちにできる省エネのコツを発見・実践し、校内の消費電力削減につながる活動が高く評価された下高瀬小学校をはじめ、三豊市の子どもたちは、全国的にも高い問題意識で取り組んでいます。

身近なところから環境への課題意識を持ち、実践していく取り組みは、私たち大人も見習わなくてはなりません。



省エネのコツを見つけよう
(下高瀬小学校)

地球温暖化問題は

若い人ほど切実です

京都議定書では日本は温室効果ガスの排出量を1990年に比べて6%削減することを義務づけられています。今年から5年間の期間ですが、1990年の2006年は減どころか逆に6%増でした。

1月7日付け朝日新聞が、地球温暖化について世論調査をしており、それによると、この状況を示したうえで、「削減義務を必ず達成すべきか」との問いに、78%が「必ず達成すべき」と答えています。そして若い世代ほどその関心度は高く、20代ではなんと85%が必ず達成すべきと答えています。若い人ほど切実なのです。

また生活改革意識として、「地球温暖化を防ぐには一人ひとりの生活習慣の改革がどの程度必要か」という問いには、「大いに必要」54%、「ある程度必要」42%と、合わせて96%。すなわち、全国民と言っているほどの人が地球温暖化防止に大きな理解を示しています。

さらにアンケートは踏み込んで、「地球環境が悪くなるのを防ぐためには、今より生活が不便になっても構わないと思えますか」と聞いています。「構わない」51%、「困る」43%と、こちらも驚くべきことです。もう相当数の人たちが事態の深刻さを認識しているということなのです。

一方、「地球温暖化防止のために、政府は熱心に取り組んできたと思えますか」の問いには、「熱心ではなかった」80%、「熱心に取り組んできた」12%と、行政の行動に対しては厳しい見方が示されています。



美しいふるさとを子どもたちに

「地球温暖化防止に関心がある」

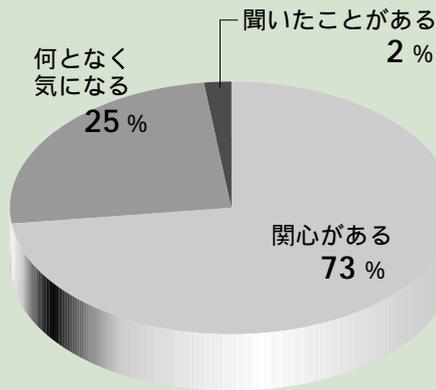
と答えたのは

なんと三豊市民の98%

それでは、この地球温暖化問題に対して三豊市民はどういう関心を持っているのでしょうか。

平成19年1月に本市の自治会長543人、無作為に抽出した市民310人、事業所100カ所、小学生935人に対して実施した「市民等の意識調査アンケート」にそのデータがあります。

Q：地球温暖化について
どの程度関心がありますか



「地球温暖化（エネルギー問題を含む）についてのどの程度関心がありますか」という問いに対し、「関心がある」73%、「何となく気になる」25%と、全体の98%の皆さんが関心を持っています。これはその他のテーマの中でも最高の関心の高さが示されています。

さらに、「これからより良い環境を目指して活動し

ていく中で、市役所の取り組みとして重要なものは何ですか」の問いには、「ごみの減量化・リサイクル」が92%と最も高くなっています。

ごみの減量化・リサイクルについて

考え、行動を起こす時です

これらの数字からわかるように、もうすでに三豊市民は地球温暖化に対しては相当高い関心を持っており、あとはむしろどう行動していくかの合意づくりが行政に求められていると言っていい状態だと判断します。今より生活が大きく不便にならないやり方で、三豊市は三豊市としての地球温暖化防止に向けての行動を起こす時が来ています。



リサイクル活動(辻小学校)
(15ページに関連記事)

若い人たちほど心配している地球温暖化防止に向けて、まず市民が三豊市の取り組みで最も求めている「ごみの減量化・リサイクル」について、考え、そして行動を起こしていきましょう。

(文責) 三豊市長 横山忠始

今回は、「循環共生社会」について取り上げます。